

中間とりまとめ(案)へのWGにおける検討の反映状況

開催	テーマ	講師	講演・意見交換における関係箇所	中間とりまとめ(案)への反映状況
令和元年 8月6日 第1回	「Society5.0」 を踏まえた港 湾のあり方	(株)日通総合研究所 顧 問(リサーチフェロー) 田阪幹雄	<ul style="list-style-type: none"> 欧米では、産業の枠を超えて物流の規格を統一化する動きがあり、日本においても、スタンダードイゼーション(標準化)を進めていかなければならない 	P18 「各技術や施設を規格化・標準化し、(略)それらを有機的に連動させる」
			<ul style="list-style-type: none"> AI,IoT化による恩恵以上に、人口減少が進展すると予測されており、特に製造業等に比べ、物流業が受ける恩恵は小さいため、女性や高齢者の登用を始めとする人材確保を進める必要 	P21 「港湾で働く人々等に配慮した港湾を実現するため、(略)バリアフリー化・ユニバーサルデザイン化の導入を促進する」
令和元年 9月13日 第2回	港湾における 賑わい創出 のあり方	芝浦工業大学 名誉教授 中野恒明	<ul style="list-style-type: none"> 日本においては現在、臨港地区に人が住むことはできないが、市民あつての港であり、制度も含め、港の活かし方を改めて考える必要がある 	P19 「老朽化・陳腐化した倉庫のリノベーション等により、居住空間や宿泊施設、飲食店、コワーキングスペース等を確保する」
		国土技術政策総合研究 所 沿岸域システム研究 室長 上島顕司	<ul style="list-style-type: none"> 港を再生し、都市全体としての価値を高めるためには、水辺等の既存ストックの有効活用を図るとともに、背後の都市との連携を図ることが重要である 	
令和元年 10月1日 第3回	港湾の電子 化による背後 産業との連携	慶應義塾大学環境情報 学部 教授 神成淳司	<ul style="list-style-type: none"> サイバーポートにおける「港湾関連データ連携基盤」では、紙ベースで行われていた手続きを電子化するため、港湾関係者のデータを一つのプラットフォームに繋げる仕組みづくりを進めているところ。更に、集まったデータとAIを活用することで、高付加価値化が期待できる 	P18 「『港湾関連データ連携基盤』を活用し、紙媒体による非効率な手続きの解消を図る」
令和元年 11月18日 第4回	四国における 海上輸送の 将来	四国開発フェリー株式会 社 代表取締役副社長 瀬野恵三	<ul style="list-style-type: none"> トラックドライバー不足に対応するため、自社貨物の5割程度を無人航走としているが、動態管理の効率化を図るため、シャーシにGPSを搭載 	P18 「RFID等による位置情報管理等の情報化技術を導入する」
		東京大学大学院工学系 研究科システム創成学専 攻 准教授 柴崎隆一	<ul style="list-style-type: none"> 貨物需要に対応したフェリーヤードの確保 	P18 「貨物量の増大に伴う荷役作業効率の向上やヤード不足の解消を図るため、立体化を含む、これらに対応したターミナルの整備」
		<ul style="list-style-type: none"> 船舶大型化によって寄港に必要な集荷貨物量が増えているが、四国の港湾1港では限界であり、港湾群でグループとして何か誘致とか航路編成を考えるべきで、四国のコンテナ航路は、中国地方等其他地域の港にも寄っていることが多く、海域で連携を考えるべきである 	P21 「港湾群での集貨や航路誘致、海域毎の広域連携等を踏まえ、効率的に港湾整備を実施する」	
令和元年 12月6日 第5回	臨海部におけ る産業の付加 価値創出	東京大学工学系研究科 教授 坂田一郎	<ul style="list-style-type: none"> 従来の行政は、ひとつの決まった目標に向かって進むチームを作り物事を進めて行くというやり方であるが、「予定調和なき知的対流」を起こすためには、明確な目的は無くとも、人が集まり、交流が生まれるような空間を提供することが重要 	P19 「老朽化・陳腐化した倉庫のリノベーション等により、居住空間や宿泊施設、飲食店、コワーキングスペース等を確保する」